救命救急センター（救命救急科）

センター長
志馬　伸朗

専門医資格等
- 日本救急医学会専門医
- 日本集中治療医学会専門医
- 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医
- 麻酔科標榜医
- 日本感染症学会感染症専門医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医/認定医
- 日本外科感染症学会外科周術期感染管理暫定教育医/認定医
- 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医
- 日本ペインクリニック学会専門医
- PALSインストラクター
- Infection control doctor

専門分野
- 集中治療医学
- 救急医学
- 感染症学
- 麻酔科学

得意疾患
- 急性呼吸不全
- 重症感染症
- 小児救急・集中治療

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
診療科長	笹橋　　望	日本外科学会認定医 日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本胸部外科学会認定医 日本胸部外科学会指導医	救急医学 心臓血管外科学	ER
医　　長	別府　　賢	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医 麻酔科標榜医 JATECインストラクター FCCSインストラクター	集中治療 麻酔	重症感染症
医　　師	田中　博之	日本内科学会認定医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 JATECインストラクター ITLSインストラクター JPTECインストラクター ICLSインストラクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急、一般	呼吸器疾患、災害医療
医　　師	吉田　浩輔	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定医	救急、集中治療	重症感染症
医　　師	堤　　貴彦	麻酔科標榜医	救急、麻酔	外傷
専修医	井上　　京		救急、集中治療	重症感染症
救命科顧問	金子　一郎	帝京大学救急医学講座　准教授 日本救急医学会指導医 日本外科学会指導医	心肺蘇生法 外傷 救急医学	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医認定施設

1．京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2．重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3．循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4．積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□ 主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

□ 診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
重症救急患者への集中治療
院内重症患者に対する集中治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ
多施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育(京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む)
臨床医学教育（京都大学、京都府立医科大学、橘大学）
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会、他病院との連携ならびに情報交換

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.5名	1,001名	6.6日

外来患者数

1日平均患者数
8.3名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	Shime N, Kosaka T, Nakanishi M, Fujita N. Pseudomonas aeruginosa is still a major threat in Japanese hospital: results from a single-institute, nosocomial bacteremia database analysis. The 13th. Joint scientific congress of the Korean society of critical care medicine and Japanese society of intensive care medicine. 2013.4.27, Seoul
国際学会	inoue k, kataoka y, yoshida k, tanaka h, sasahashi n, beppu s, shime n, kaneko i. a case report of rhabdomyolysis and renal failure from acute purulent myositis the 13th. joint scientific congress of the korean society of critical care medicine and japanese society of intensive care medicine. 2013.4.27, seoul
国際学会	Umenai T, Shime N, Asahara T, Nomoto K. The efficacy of administration of Bifidobacterium breve on postoperative recovery in neonates undergoing congenital heart surgery: a pilot trial. The 13th. Joint scientific congress of the Korean society of critical care medicine and Japanese society of intensive care medicine. 2013.4.27, Seoul
国際学会	Shime N, Kosaka T, Nakanishi M, Fujita N. Nosocomial pediatric bacteremia: a single-institute survey. The 28th. International Congress of Chemotherapy and Infection. 2013.6.7. Yokohama
国際学会	Inoue K, Fujino M, Kato T, Tsutsumi T, Yoshida K, Tanaka H, Beppu S, Sasahashi N, Shime N. A case of systemic capillary leak syndrome with severe rhabdomyolysis. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine, 2013.10.23-25, Tokyo
国際学会	Tanaka H, Inoue K, Tsutsumi T, Beppu S, Sasahashi N, Shime N. A case of cultivator accident trauma. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine, 2013.10.23-25, Tokyo
国際学会	Tanaka H, Inoue K, Tsutsumi T, Beppu S, Sasahashi N, Shime N. A case of penetrating neck and abdominal injury. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine, 2013.10.23-25, Tokyo
国際学会	Morisaki H, Shime N, Hayashida K, Nagamatsu S, Yamashita K; the members of social insurance study committee and working group on manpower investigation. Manpower and medical economy in Japan ICU. International symposium 3, The international scientific congress of t intensive care and critical care in Kyoto 2014, 2014.3.1, Kyoto

国際学会	Tanaka H, Shime N, NSasahashi N, Beppu S, Yoshida K, Inoue K, Tsutsumi T. A retrospective comparison of the intra aortic balloon pumping catheter insertion at Kyoto Medical Center. The 14st joint congress of the Japan society of intensive care medicine and Korean Society of Critical Care Medicine, 2014.3.1, Kyoto
国際学会	Shime N, Bokui M. Should we keep vancomycin trough concentrations at >15mg/L?. The 14st joint congress of the Japan society of intensive care medicine and Korean Society of Critical Care Medicine, 2014.3.1, Kyoto
国内学会	志馬伸朗. Surviving sepsis campaign guidelines2012～日本の小児医療現場でどう使うか. 第27回日本小児救急医学会総会. ランチョンセミナー2, 2013.6.14, 宜野湾
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連事象（VAE）：定義の紹介と研究の方向性. 第回日本呼吸療法医学会. 2013.7.20, 東京
国内学会	志馬伸朗. 救急かなりヤバイ感染症①. 救急感染症塾. 第41回日本救急医学会総会. 2013.10.21, 東京
国内学会	志馬伸朗. 救急・集中治療現場で体温をどう評価し、どう使うのか. 第41回日本救急医学会総会ランチョンセミナー. 2013.10.22, 東京
国内学会	志馬伸朗. 感染症科医への敗血症ガイドラインの紹介. 第61回日本化学療法学会西日本支部総会, 第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2013.11.8大阪
国内学会	志馬伸朗. ICUでの重症感染症治療. 第26日本外科感染症学会ランチョンセミナー4. 2013.11.25, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎.　第175回ICD講習会「医療関連感染に対する標準的予防対策」. 第26日本外科感染症学会. 2013.11.27, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 敗血症診療のポイント：ガイドライン以上、PMX未満?. 日本エンドトキシン自然免疫研究会, 2013.12.6, 大津
国内学会	志馬伸朗. 集中治療医にしかできない感染症診療をしよう. シンポジウム：原点から未来へ～21世紀の集中治療はどうあるべきか. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本　抄録：日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page179(2013.01)
国内学会	志馬伸朗. ステロイドは、"捨てるど"・CONの立場から. ディベートセッション・重症肺炎にはステロイドを使用する?. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本. 日本集中治療医学会雑誌20巻Suppl. Page283(2013.01)
国内学会	清水一好, 清水直樹, 本間順, 梅垣修, 浅野真依子, 宇城敦司, 徳平夏子, 安藤寿, 立石順久, 志馬伸朗. わが国のECMO症例集積とELSOとの比較. シンポジウム：小児ECMO治療最前線. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本　（日本集中治療医学会雑誌20巻Suppl. Page187(2013.01)
国内学会	川口敦, 志馬伸朗, 永松聡一郎, 山下和人, 高橋弘, 幸部吉郎, 志水太郎, 萩原佑亮, 三木 智子. 学会内制度調査で明らかになった急性期医療における医療資源の偏在と将来予測：循環器救急医療実態アンケート調査と麻酔科医のマンパワーに関する調査を交えて：日本における小児集中治療労働力調査・集中治療医からのアプローチ. 小児集中治療委員会報告:第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本（日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page290(2013.01)
国内学会	清水義之, 竹内宗之, 井上美帆, 大崎真樹, 清水一好, 杉村洋子, 徐民恵, 多賀直行, 田畑 雄一, 戸田雄一郎, 林拓也, 松井彦郎, 水城直人, 水野圭一郎, 水野裕美子, 祖父江和哉, 志馬伸朗. 小児集中治療室(PICU)における小児心臓手術後の栄養投与方法の調査. 小児集中治療委員会報告:第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本（日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page288(2013.01)
国内学会	川口敦, 志馬伸朗, 永松聡一郎, 山下和人, 高橋弘, 幸部吉郎, 志水太郎, 萩原佑亮, 三木 智子. 集中治療労働力調査　小児集中治療における現状、意識調査. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本（日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page288(2013.01)
国内学会	松田直之, 織田成人, 相引眞幸, 池田寿昭, 今泉均, 遠藤重厚, 落合亮一, 小谷穣治, 志馬 伸朗, 橋本悟, 西田修, 野口隆之, 平澤博之. SEPSIS REGISTRY報告. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本. 日本集中治療医学会雑誌20巻Suppl. Page288(2013.01
国内学会	志馬伸朗. 日本版敗血症診療ガイドライン「抗菌治療」部分の使い方. シンポジウム：敗血症ガイドラインを使いこなすために. 日本麻酔科学会第60回学術集会. 2013.5.25, 札幌
国内学会	志馬伸朗. 重症小児の集約拠点について関連諸学会はどのように見ているの？日本集中治療医学会小児集中治療委員会より. 第27回日本小児救急医学会総会. 小児救急・集中治療ワークショップ. パネルディスカッション2, 2013.6.14-5, 宜野湾
国内学会	志馬伸朗. 新型インフルエンザへの対応. 緊急フォーラム:H7N9に如何に備えるか？第27回日本小児救急医学会総会. 小児救急・集中治療ワークショップ. 2013.6.16, 宜野湾
国内学会	志馬伸朗. 感染症診断と抗菌治療. シンポジウム４「敗血症（セプシス）治療の標準化」, 第26日本外科感染症学会. 2013.11.26, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 侵襲性カンジダ症の危険因子と診断. ワークショップ2「外科・救急領域における深在性真菌症の診断と治療」, 第26日本外科感染症学会. 2013.11.25, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 敗血症における抗菌治療. 第41回日本集中治療医学会学術集会イブニングセミナー4：重症敗血症に対する集中治療. 2014.2.28, 京都
国内学会	志馬伸朗. 日本での小児敗血症診療における合意意見. 委員会報告２小児集中治療委員会報告：第41回日本集中治療医学会学術集会：重症敗血症に対する集中治療. 2014.2.28, 京都
国内学会	清水義之, 志馬伸朗. 小児集中治療室(PICU)における小児心臓手術後の栄養投与法の調査（第2報）. 委員会報告２小児集中治療委員会報告：第41回日本集中治療医学会学術集会：重症敗血症に対する集中治療. 2014.2.28, 京都
国内学会	志馬伸朗. ICUにおける多職種連携～その落とし穴をあえて考える. パネルディスカッション３ICUにおける職種間連携. 第41回日本集中治療医学会学術集会. 2014.3.1, 京都
国内学会	清水義之, 志馬伸朗, 小谷穣治. 日本版ICUにおける栄養管理ガイドライン（小児の栄養管理について）. シンポジウム４日本版ICUにおける栄養管理ガイドライン作成. 第41回日本集中治療医学会学術集会. 2014.3.1, 京都
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎の予防策. シンポジウム13人工呼吸器関連肺炎の予防戦略アップデート第29回日本環境感染学会. 2014.2.14, 東京
国内学会	田村彰広, 平位秀世, 佐竹早紀子, 志馬伸朗, 佐和貞治. 転写因子C/EBPβはカンジダ感染後の造血幹細胞・骨髄系前駆細胞の増殖を制御する. 第87回日本感染症学会総会. 2013.6.5－6, 横浜
国内学会	渡邉侑奈, 藤田直久, 中西雅樹, 藤友結美子, 志馬伸朗, 小阪直史、山田幸司, 小森敏明. 当院における侵襲性GBS感染症に関する検討. 第87回日本感染症学会総会. 2013.6.5－6, 横浜
国内学会	吉田 浩輔, 井上 京, 田中 博之, 堤 貴彦, 別府 賢, 笹橋 望, 志馬 伸朗. 高齢者の重症大動脈弁狭窄症に伴った心不全にNasal High Flowが奏功した一例. 第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　抄録：日本救急医学会雑誌24(8);698
国内学会	藤野 光洋, 田中 博之, 井上 京, 吉田 浩輔, 堤 貴彦, 別府 賢, 笹橋 望, 志馬 伸朗. 鑑別診断および治療に難渋した、急性循環不全をきたしたSystemic capillary leak syndrome. 第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　日本救急医学会雑誌24(8);674
国内学会	堤 貴彦, 井上 京, 吉田 浩輔, 田中 博之, 別府 賢, 笹橋 望, 志馬 伸朗. 心肺停止蘇生における電動式骨髄針の有用性. 第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　日本救急医学会雑誌24(8); 514

国内学会	井上 信明, 荒木 尚, 浮山 越史, 神薗 淳司, 許 勝栄, 齊藤 修, 志馬 伸朗, 六車 崇, 久保 実, 小児救急医学会専門医制度検討ワーキンググループ. 新しい専門医制度に対応する救急医学の教育プログラム　小児救急の専門医が持つべき知識や技術とは：小児救急医学会医師会員の意識調査第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　日本救急医学会雑誌24(8);503
国内学会	朴井三矢、藤村尚子、福田良子、上野裕之、玉田太志、北村良雄、志馬伸朗. 当院における塩酸バンコマイシン注の至適トラフ値と腎機能障害の調査. 第62回日本化学療法学会西日本支部総会. 2013.11.8, 大阪
国内学会	佐田蓉子, 子安聡子, 吉田浩輔, 七野力, 志馬伸朗. 気管支ブロッカーを用いて救命し得た大量喀血の2例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	堤貴彦, 井上京, 吉田浩輔, 田中博之, 別府賢, 志馬伸朗. 熱中症と敗血症の鑑別におけるプロカルシトニン測定の有用性. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	井上京, 堤貴彦, 吉田浩輔, 田中博之, 別府賢, 笹橋望, 志馬伸朗. 診断に苦慮した外傷性膀胱破裂2症例の検討. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	吉田浩輔, 堤貴彦, 井上京, 田中博之, 別府賢, 笹橋望, 志馬伸朗. 救命センターでのdo not attempt resuscitationの現状調査. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	柳澤雅美, 志馬伸朗. 人工呼吸器関連事象（VAE）サーベイランスの試み. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.2.27, 京都
国内学会	志馬伸朗. 感染症の抗菌治療. 第回日本集中治療医学会近畿地方会教育講演. 2013.7.6, 神戸
国内学会	志馬伸朗, 小阪直史, 中西雅樹, 藤友結美子, 山田幸司, 藤田直久. 小児院内菌血症の解析. 第４回MRSAフォーラム. 2013.7.14, 東京
国内学会	小阪直史, 中西雅樹, 藤友結美子, 山田幸司, 藤田直久. 小児患者に対するリネゾリドの血中濃度と安全性・認容性. 第４回MRSAフォーラム. 2013.7.14, 東京
国内学会	志馬伸朗. 最新の敗血症(sepsis)診療:定義からガイドラインまで. 伏見医師会ランチョンセミナー. 2013.7.12, 京都
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎2013アップデート：新しいサーベイランスから診断治療ストラテジーまで. 第11回人工呼吸セミナー in 岡山. 2013.7.27, 岡山
国内学会	志馬伸朗. 周術期の感染症管理：予防から治療まで. 第3回鹿児島周術期管理研究会. 2013.8.9, 鹿児島
国内学会	志馬伸朗. 重症患者の生体反応と患者管理のポイント. 日総研セミナー. 2010.8.17, 大阪.
国内学会	志馬伸朗. 肺を悪くしない人工呼吸管理のポイント. 質の高い人工呼吸管理を目指して. 2013.8.24, 佐賀
国内学会	志馬伸朗. 新生児・小児の呼吸生理に基づく呼吸療法. 3学会合同呼吸療法士認定講習会. 2013.8.29；東京
国内学会	志馬伸朗. 質の高い安全な人工呼吸管理のための方策～肺炎予防を中心に. 第6回加温加湿／酸素療法研究会. 2013.9.7, 大阪
国内学会	志馬伸朗. 敗血症における抗菌療法の実践. 第10回関西感染症診療フォーラム. 2013.9.7, 大阪
国内学会	志馬伸朗. 敗血症の抗菌療法～SSCG2012を深く読む. 第2回信州敗血症セミナー. 2013.9.20, 松本
国内学会	志馬伸朗. 発熱の評価と対処. 加古川西市民病院感染対策講座. 2013.9.24, 加古川
国内学会	志馬伸朗. 重症敗血症に対する抗菌治療. 第2回宮城sepsisセミナー. 2013.9.27, 仙台
国内学会	志馬伸朗. 志馬伸朗. ICUにおける発熱評価と体温管理. クリティカルケアセミナーin大宮, 2013.9.28, 大宮
国内学会	志馬伸朗. 敗血症治療最前線. 第39回滋賀救急医療研究会, 2013.9.28, 大津
国内学会	志馬伸朗. 論文を読もう・研究をしよう. 第回長野こども病院院内研修会. 2013.10.4, 安曇野
国内学会	志馬伸朗. 重症肺炎の人工呼吸管理を再考する. 第６回抗菌薬適正使用UPDATE, 2013.10. 5 , 京都
国内学会	志馬伸朗. 敗血症診療ガイドライン～日本の小児医療現場でどう使うか. 成育医療センター救急診療科セミナー. 2013.10.11, 東京
国内学会	志馬伸朗. 薬剤耐性菌分離症例は抗菌薬で予後を改善できるか: 2.VAP. 第13回呼吸器感染症フォーラム. 2013.10.19, 東京
国内学会	志馬伸朗. MRSA感染症のpitfalls, 香川県内科医会呼吸器疾患談話会. 2013.10.24, 高松
国内学会	志馬伸朗. 敗血症治療成績を高めるためのコツ. Okayama Sepsis Forum. 2013.10. 30, 岡山
国内学会	志馬伸朗. 最新の敗血症治療～ガイドラインを中心に. 第3回キュビシンシンポジウム. 2013.11.5, 千葉
国内学会	志馬伸朗. ガイドラインは手に入れた～その後どうするか：敗血症診療のポイント2013. 第6回京滋クリティカルケアヤングアカデミー. 2013.11.9, 京都
国内学会	志馬伸朗. シンプル院内感染管理. 新古賀病院院内感染対策研修会. 2013.11.11, 久留米
国内学会	志馬伸朗. 小児敗血症診療のための推奨. 第12回小児集中治療ワークショップ. 2013.11.17, 東京
国内学会	志馬伸朗. Nosocomial infections in the ICU. Multiprofessional critical care review course. 2013.11.23, 東京
国内学会	志馬伸朗. なぜ、体温を測るのか. 徳島赤十字病院院内講演会. 2013.11.28、小松島
国内学会	志馬伸朗. SpO2とCRP, JSEPTICセミナー/京都セプシスフォーラム. 2013.12.14, 京都
国内学会	志馬伸朗. 重症患者の生体反応と患者管理のポイント. 日総研セミナー. 2013.12.8, 東京
国内学会	志馬伸朗. パネリスト. 2013 World sepsis day関連イベント. 2013.9.13, 東京
国内学会	志馬伸朗. 重羞悪感染症診療の基本～ベッドサイドの常識と非常識. JA長野厚生連安曇総合病院感染対策研修会. 2014.1.16, 池田町
国内学会	志馬伸朗. プレホスピタルでの重症感染症対応～敗血症性ショックを対象に.第58回京都府プレホスピタル救急医療検討会特別講演. 2014.1.29, 京都
国内学会	志馬伸朗. 重症MRSA感染症の抗菌療法～リネゾリドの位置づけ～ザイボックスwebシンポジウム：Infection Gambit ver.2. 2014.1.28, 京都

国内学会	志馬伸朗. 敗血症診療ガイドラインを踏まえた治療戦略. 敗血症治療セミナーin 金沢2014.2.10, 金沢
国内学会	志馬伸朗. 敗血症:最新の治療. 第13回感染症セミナー. 2014.2.6, 天理
国内学会	志馬伸朗. ②外科・救急領域. シンポジウム「世界の中における日本版ガイドライン」. 真菌症フォーラム第15回学術集会. 2014.2.8, 東京
国内学会	志馬伸朗. 臨床的に考える:救急・集中治療領域. 第12回キャンディン研究会. 2014.3.15, 東京
国内学会	志馬伸朗. 敗血症の診療GLと抗菌療法. ラジオNIKKEY感染症TODAY 2013.10.16

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著 書・雑 誌 名
Sakaguchi M, Shime N, Iguchi N, Kobayashi A, Takada K, Morrow LE. Effects of adherence to ventilator-associated pneumonia treatment guidelines on clinical outcomes. J Infect Chemother. 2013; 19(4):599-606.
Ishii S, Shime N (contributred equally as first authors), Shibasaki M, Sawa T. Ultrasound-guided radial artery catheterization in infants and small children. Pediatr Crit Care Med 2013; 14:471–473
Shime N, Hosokawa K, MacLaren G. Does cooling really improve outcomes in patients with septic shock? Am J Respir Crit Care Med 2013;187(11):1274-5.
Shime N, Maclaren G. Supplemental parenteral nutrition in critically ill patients. Lancet 2013; 381: 1715-1716
Nakayama Y, Shibasaki M, Shime N, Nakajima Y, Mizobe T, Sawa T. The RACHS-1 risk category can be a predictor of perioperative recovery in Asian pediatric cardiac surgery patients. J Anesth 2013;27(6);850-4
MacLaren G, Dodge-Khatami A, Dalton HJ; Writing Committee, MacLaren G, Dodge-Khatami A, Dalton HJ, Adachi I, Almodovar M, Annich G, Bartlett R, Bronicki R, Brown K, Butt W, Cooper D, Demuth M, D'Udekem Y, Fraser C, Guerguerian AM, Heard M, Horton S, Ichord R, Jaquiss R, Laussen P, Lequier L, Lou S, Marino B, McMullan M, Ogino M, Peek G, Pretre R, Rodefeld M, Schmidt A, Schwartz S, Shekerdemian L, Shime N, Sivarajan B, Stiller B, Thiagarajan R. Joint statement on mechanical circulatory support in children: a consensus review from the Pediatric Cardiac Intensive Care Society and Extracorporeal Life Support Organization. Pediatr Crit Care Med. 2013;14:S1-2.
Hashimoto S, Shime N. Evaluation of semi-quantitative scoring of Gram staining or semi-quantitative culture for the diagnosis of ventilator-associated pneumonia: a retrospective comparison with quantitative culture. J Intensive Care 2013, 1:2
Nakagawa S, Shime N. Respiratory rate criteria for pediatric systematic inflammatory response syndrome. Pediatr Crit Care Med. 2014;15(2):182.
志馬伸朗（編著）. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 2013
志馬伸朗（編著）. 特集：感染症診療のポイント. 救急医学38(2), 2014
志馬伸朗. ICU　患者の抗菌療法において初期経験的治療の適切性は予後に影響するか？讃井將満編著. 臨床に直結する集中治療のエビデンス. 文光堂. 東京, 2013
志馬伸朗. 小児呼吸管理中の鎮痛・鎮静. 植田育也編著. 徹底ガイド/小児の呼吸管理Q&A第2弾. 総合医学社. 東京, 2013
志馬伸朗. 小児における超音波ガイド下血管穿刺の実際. 坂本篤弘, 佐藤重仁編著. 麻酔科医に必要な超音波ガイド手技のポイントと教育（臨床麻酔実践シリーズ). ライフメディコム. 東京, 2013
志馬伸朗. 疫学. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 96-7, 2013
橋本壮志, 志馬伸朗. ARDS以外の患者にも肺庇護換気をすべきか？. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 114-119, 2013
志馬伸朗, 細川康二. 腹臥位によるARDS生命予後改善～13年ぶりの快挙は, 研究計画の勝利か？. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 146-7, 2013
田中博之, 志馬伸朗. β刺激薬, テオフィリン製剤. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 146-7, 2013
志馬伸朗. PEEPの設定. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 146-7, 2013
志馬伸朗. 原因となる主な感染症と抗菌薬治療. 医療スタッフのための易しく解説!日本版敗血症ガイドライン. 東京：秀潤社, 56-70, 2013
志馬伸朗. 鎮痛・鎮静. 小児救急医療の理論と実践. 公益社団法人日本小児科学会・日本小児救急医学会. 東京：編集室なるにあ, 138-145, 2013
志馬伸朗(分担執筆). 日本版敗血症診療ガイドライン. 一般社団法人日本集中治療医学会 sepsis registry委員会. 東京：克誠堂出版, 2013
志馬伸朗. 抗菌療法. 集中治療専門医テキスト. 一般社団法人日本集中治療医学会. 東京：総合医学社, 2013
志馬伸朗. 8.呼吸管理2)その後のエビデンスと日本での活用. 敗血症(セプシス)救命治療の最前線, 大阪：医薬ジャーナル社, 2014
志馬伸朗(分担執筆). 深在性真菌症の診断・治療ガイドライン2014. 深在性真菌症のガイドライン作成委員会. 東京：協和企画, 2014
志馬伸朗. 47. 集中治療(5) 小児集中治療. 天羽啓祐監修. 麻酔科学レビュー2013. 東京：総合医学社, 286-290, 2014
志馬伸朗. De-escalationは真に遂行可能か. 敗血症治療:一刻を争う現場での疑問に答える. 東京：羊土社, 114-119, 2014
橋本壮志, 志馬伸朗, 橋本　悟. 急性呼吸促迫症候群に対する人工呼吸管理法の単施設・10年間の変遷. 日集中医誌 2013;20:287-8.
笠井正志, 尾内一信, 志馬伸朗, 平井克樹, 荒畑幸絵, 櫻井淑男, 吉本 昭, 国貞佳世. 小児呼吸器感染症ガイドライン2007上の最重症肺炎に対するわが国小児集中治療領域における注射用抗菌薬使用状況. 小児感染免疫 2013;24:443-449
笠井正志, 志馬伸朗, 齋藤昭彦, 船木孝則, 庄司健介, 宮入 烈. 本邦複数の小児医療施設における血液培養採取量と検出率に関する観察研究. 感染症学雑誌 87(5);620-3. 2013
志馬伸朗, 篠原貴子, 重見研司. 敗血症の認知度調査. 日集中医誌 2013;20:667-70.
林田賢史, 村上玄樹, 森崎 浩, 遠藤重厚, 大塚将秀, 志馬伸朗, 土井松幸, 西田 博, 福家 伸夫, 山本 剛, 羽鳥文麿, 松田晋哉, 日本集中治療医学会社会保険対策委員会診断群分類に基づく診療報酬支払制度データから検討したICU収支の現状(第2報)　生命維持装置使用の有無と在室日数による解析.　日集中医誌 20(3);431-4, 2013
笠井正志, 志馬伸朗, 齋藤昭彦, 船木孝則, 庄司健介, 宮入 烈. 本邦複数の小児医療施設における血液培養採取量と検出率に関する観察研究.感染症学雑誌 87(5);620-623, 2013
志馬伸朗, 羽鳥文麿, 氏家良人ら:日本集中治療医学会小児集中治療委員会. 日本での小児重症敗血症診療に関する合意意見. 日集中医誌 2014;21:67-88.

松田直之, 織田成人, 相引眞幸, 池田寿昭, 今泉　均, 遠藤重厚, 落合亮一, 小谷穣治, 志馬伸朗, 西田　修, 野口隆之, 平澤博之. 日本集中治療医学会Sepsis Registry委員会日本集中治療医学会第1回Sepsis Registry調査 2007年の重症敗血症および敗血症性ショックの診療結果報告. 日集中医誌 2013;20:329-34.
志馬伸朗. 超音波ガイド下血管穿刺②小児における超音波ガイド下血管穿刺の実際. |日臨麻会誌2013;33:461~ 469
志馬伸朗. ライン関連感染を回避するために麻酔科医ができること～小さな心配りの積み重ねがプロの証. LiSA 2013;20:438-443
八島正文, 山岸正明, 中山力恒, 影山京子, 志馬伸朗, 溝部俊樹, 黒光弘幸. 心臓手術の実際　外科医が語る術式、麻酔科医が語る心臓麻酔、臨床工学技士が語る体外循環法(第35回), Aortic translocation手術と体外循環法, 京都府立医科大学附属病院(解説). Clinical Engineering 2013;24:372-384
志馬伸朗. 小児集中治療患者への栄養管理. 臨床栄養　122;550-554, 2013
志馬伸朗. 日本版敗血症診療ガイドラインの解説　抗菌薬治療のポイントを中心に. Pharma Medica 31;109-115, 2013
志馬伸朗. 呼吸器感染症/肺炎/人工呼吸器関連肺炎(VAP). 日本臨床(別冊感染症症候群(第2版)[下]-症候群から感染性単一疾患までを含めて-).　187-191, 2013
志馬伸朗. Antimicrobial therapy. 救急医学37(11);1450-56, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎(VAP)の診断と治療. Medicina 50(12);1986-1990, 2013
志馬伸朗. 体温と予後予測. 救急医学37(9);1013-16, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎対策. 日本外科感染症学会雑誌10(2);225-31, 2013
志馬伸朗. 小児集中治療看護の要点. 呼吸器ケア(合同臨時増刊);78-87, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸患者の栄養経路はどうやって決めるの?. 呼吸器ケア 11(9);917-925, 2013
志馬伸朗. 超音波ガイド下血管穿刺：小児における超音波ガイド下血管穿刺の実際. 日本臨床麻酔学会雑誌33(3); 461-9, 2013
志馬伸朗. ステロイドは、“捨てるど?”. 救急・集中治療25（9-10）;1173-1183, 2013
徳平夏子, 志馬伸朗. 重症インフルエンザ感染：インフルエンザ関連肺炎の診断治療を中心に. 小児内科45(11);1994-1998, 2013
笠井正志, 志馬伸朗. 小児重症感染症へのアプローチ. ICUとCCU37(12), 921-7, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎(VAP). 日本臨床 別冊感染症症候群（下）;187-191, 2013
志馬伸朗. 暴れ馬で流鏑馬は可能か～小児集中治療患者での薬物動態解析によるバンコマイシン治療. 日集中医誌20(4);561-3, 2013
田畑裕一, 志馬伸朗. 人工呼吸管理における加温・加湿の考え方. こどもケア8(5);16-20, 2013
志馬伸朗. 外科・救急領域における深在性真菌症の診断と治療：侵襲性カンジダ症の危険因子と診断. 感染症道場2014；3(1):63-65
志馬伸朗. わからないものを受け入れ, 解決すること ～カテーテル挿入時消毒薬の選択. 日集中医誌 2014;21:65-66.
長谷川隆一, 志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎（ventilator-associated pneumonia, VAP）はゼロにできるか？日集中医誌 2014;21:9-16.
志馬伸朗. プレホスピタルにおける敗血症. 救急医学2014;38(2):236-8
志馬伸朗. いま, 解熱処置を再考する. エキスパートナース 2014;30(3):28-32
志馬伸朗. 麻酔科医が行う周術期感染予防. 麻酔2014;63(3):269-277
志馬伸朗. エディトリアル～感染症・救急医が対峙すべきペリル. 救急医学38(2):125, 2014
志馬伸朗. 巻頭言（デバイス関連感染症）. 日本外科感染症学会雑誌 10 (2):225—231, 2013
野口綾子, 志馬伸朗, 畑中祐也, 木村 彰夫, 橋本　悟. 京都府立医科大学附属病院のVAP予防策の変遷と現状. ヴィジュアル感染対策のポイント. 丸石感染対策NEWS. 2013.
植田育也、笠井正志、川崎達也、竹内宗之、志馬伸朗、阿部世紀、杉村洋子、中川聡. 小児インフルエンザ重症呼吸不全に対する診療戦略（2013 年6 月12 日版）. 日本小児科学会ホームページhttp://www.jpeds.or.jp/uploads/files/influenza_130730_2.pdf
竹末芳生、三鴨廣繁、佐々木淳一, 志馬伸朗. 座談会：外科・救急・集中治療領域における真菌感染症の治療戦略. MSD株式会社